

虚子記念文学館投句特選句

・令和三年一月

稲畑汀子 選

若水を汲んで厨の音であり

大阪 綿谷千世子

六甲を越え来し雲に雪匂ふ

兵庫 藤井啓子

着飾つて気がねして行く初芝居

兵庫 大西美知子

海近き町風花の珈琲館

大阪 大川隆夫

凍星の語り童話の国に入る

鳥取 前田 千

音もなく冬芽うるほす雨の糸

兵庫 渡辺しま子

冬さうび祖母の真珠をつける朝

兵庫 鈴木ひとみ

恙無き幸の溢るる初湯かな

兵庫 宮本露子

平穏な日日の尊さ今朝の春

兵庫 深尾真理子

初富士や手水使ひの指の先

東京 宮村土々

入選句・令和三年一月

扉を入れれば籠に七種記念館	兵庫	岩鼻絹子	去年今年LINE飛び交ふ「会いたいね」	神奈川	平野孤舟
初夢は赤々燃ゆる五輪の火	兵庫	片岡橙更	水琴窟耳寄せてゐる実南天	兵庫	高市敦之
みどり子は父の手の中初湯殿	兵庫	山谷彰子	探梅の見知らぬ人も親しかり	石川	辰巳葉流
エメール墨で賀正と移民の子	兵庫	仲井慶次	新雪の風情静かな佇まひ	石川	辰巳昌彦
警報に来る虚子館寒の晴	兵庫	宮下美智子	臘梅のあかるき朝の通学路	兵庫	武田奈々 (青少年)
逢はずとも通ふ心や年賀状	大阪	杉山千恵子	じじばばと呼ばれて嬉しむつみ月	東京	三球
初霞晴れて目出度さ募りける	京都	杉森大介	買初や館に五七五の句帳	兵庫	奥田好子
寒晴や一番乗りの虚子館	兵庫	内田泰代	不二の山しづかに眺む二日かな	埼玉	土井洋子
初旅となりし文学館の句座	兵庫	池田雅かず	太鼓橋遠目に愛でて初詣	兵庫	キートスばんじょうし
不自由の慣れしくらしの四温晴	兵庫	黒田千賀子	揚羽子や眩しく沁みて見失ひ	神奈川	金子三奈乃
寒紅に決意の一步芦屋句座	兵庫	玉手のり子	人の輪をはなれて開く初みくじ	神奈川	進藤剛至
句を愛し句に支へられ去年今年	兵庫	森岡喜恵子			
笑顔良し良き友集ふ初句会	兵庫	平田 恵			
マスクして淋しき顔に蓋をする	兵庫	吉村玲子			
青春の古傷疼く冬薔薇	兵庫	河野ひろみ			
もの思ふ美しき頬杖冬さうび	兵庫	中村恵美			
強さとは優しきことよ冬薔薇	兵庫	涌羅由美			
冬薔薇の放つ気品に満つる句座	兵庫	山田佳乃			
初氷登校児らの声に知る	兵庫	伊藤秀子			
元旦の部屋それぞれの静けさよ	兵庫	山岸正子			
大空を塗り変へてゆく初明り	兵庫	山口弘子			
酌み交はす成人の日の父子かな	兵庫	三木雅子			
新春の句座健やかに集ふ幸	兵庫	金田八江子			
今一度千年椿見てみたく	兵庫	小川孝子			
友見舞ふしばしの日向福寿草	兵庫	西村みどり			
恙無き暮らしの秘訣寒卯	兵庫	高橋純子			
母逝けり駅伝坂を登る頃	東京	拓庵			